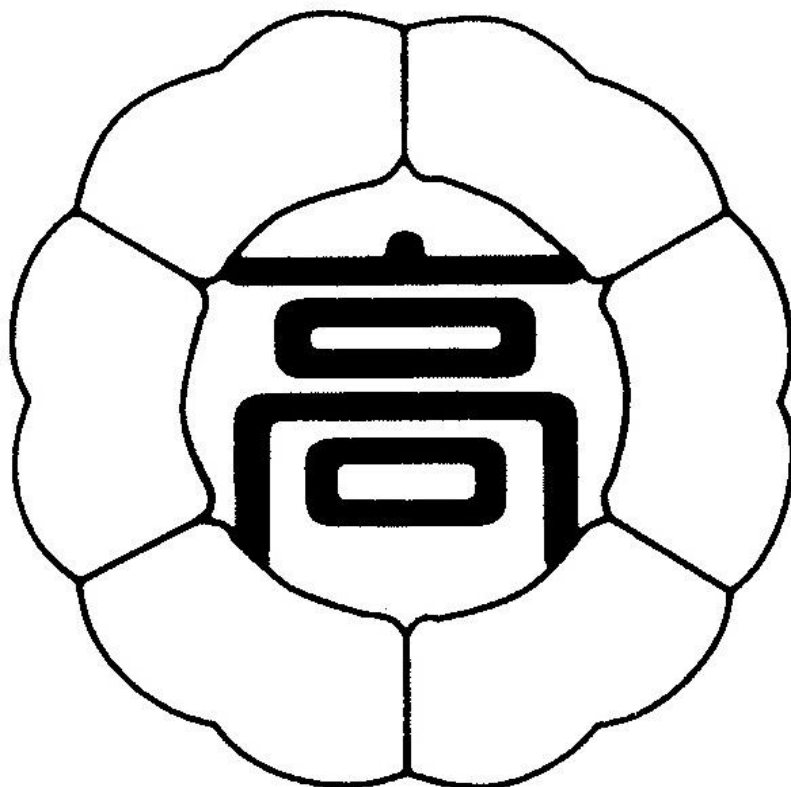


2022年度北海道大谷学園連合会  
高等学校相互評価報告書

対象校 函館大谷高等学校



評価校 帯广大谷高等学校

(評価日 2022年12月9日)

2023年3月31日

北海道大谷学園連合会相互評価委員会

## 北海道大谷学園連合会相互評価委員会

主 査	中西 猛雄 (北海道教区大谷学園委員会委員)
主査代理	山田 寿雄 (北海道教区大谷学園委員会委員)
委 員	金石 潤導 (所長推薦・南第3組開正寺)
委 員	丸山 政秀 (函館大谷高等学校長)
委 員	佐藤 健一 (函館大谷高等学校 事務長)
委 員	小野 茂 (帯广大谷高等学校 校長)
委 員	佐藤 真司 (帯广大谷高等学校 教頭)
委 員	澤田 満 (北海道室蘭大谷高等学校 教頭)

## 函館大谷高等学校の概要

設 置 者	学校法人 函館大谷学園
理事長名	門 間 佳 一
校 長 名	丸 山 政 秀
開設年月日	1888 (明治 21) 年 11 月
所 在 地	函館市鍛冶 1 丁目 2 番 3 号
設置学科	普通科 (普通コース・体育コース)
入学定員	130 名
教職員数	総数 51 名 常勤 27 名 非常勤 24 名

## 調査結果

### I 建学の精神・教育理念、教育目標・学校目標

建学の精神等については、教職員に対しては年度初めに理事長の講話で再確認、生徒に対しては「生徒のしおり」や全校集会等で周知している。平成10年度より“人間大好き”をスローガンとしている。また、「選ばず、嫌わず、見捨てず」という思いのもと教育活動が行われている。とことん生徒に寄り添う教育を心がけており、真宗大谷派の学校として、とても評価できる。

### II 分掌

#### 【教育課程・学習指導（教務）】

「すべての生徒の学力を上げる」という方針に基づき、入学前の春休みに「One-Week トライアル(国数英)」という小冊子を配布し基礎学力の向上に努めている。そして、入学後には定着度を確認し一人一人に丁寧な対応をしている。

また、定期考査後、評定「1」が付きそうな生徒に対して補習・追試を行い、合格の場合は評定「2」となる。基礎学力のない生徒に対して学び直しを行う「学力回復期間」を設定し定着している。

このように、入学時および定期考査ごとに、落ちこぼれを作らない取り組みをしている点が評価できる。

カリキュラムについては、芸術科目では音楽、美術、書道、工芸の4つがあり、生徒一人一人の希望・適性にあったものを選択できるようになっている点も評価できる。

その他、情報関係の設備が整っている点や通信トラブル対策など様々な工夫がなされている点も評価できる。帯広大谷として今後参考にしていきたい。

#### 【生徒指導・部活動（生徒指導・生徒会）】

入学前に面談を実施している。生徒の状況を事前に知るという面と保護者との連携を早期に構築できる点が評価できる。また、在学中も春と秋の2回、保護者との面談を実施し、家庭との連携を図りながら基本的生活習慣の定着を行っている点も評価できる。

クラブ活動については、体育コース（野球、サッカー、柔道、陸上、バスケットボール、自転車）を中心として活発に行われており、全道・全国大会に出場する部活動が増えてきた点が評価できる。また、体育館が一つであることや、グラウンドが狭いため、卓球部やサッカー部などは公共施設でも練習を行っている。その際の使用料は学校で負担している。また、人工芝の要望があるが計画はしていない。整備された公共の施設を使用し、リスクを背負わない学校経営を考えているとのことでとても参考になった。

#### 【進路指導】

会議や打ち合わせを多く持ち、全教職員が生徒一人一人について把握し進路指導を行っている点が評価できる。担任や進路指導部のみの指導ではなく、教職員が常に情報交換をして指導している点が伺えた。

その他、函館大谷高校から函館大谷短期大学に、3年生の20%の生徒が内部進学している点が評価できる。内部進学が多い理由は、入学金の免除、授業料の1/3補助、幼

稚園・高校・短大が一つの場所にあり他部門の様子を伺うことができることなどが考えられる。

帯広大谷高校の帯広大谷短期大学への内部進学率は近年6～8%と低いことから、今後、貴校の対策を参考にして内部進学者を増やしていきたい。

### 【保健管理・安全管理・個人情報管理】

保健管理・安全管理については、学校保健安全法に基づき実施されているので評価できる。また、個人情報管理についても、学園の規程が明確に示されており、個人情報が適切に管理されているので評価できる。

### 【入試・生徒募集】

合同進学説明会、学校説明会、私学進学フェア、中学校での説明会等の広報活動を行っている。また、作られた学校見学会ではなく、いつでも受け入れるという形で普段の様子を生徒・保護者に見てもらっている。このことが専願者増加の要因の一つにされている。

また、広報部がないことから、校長先生と教頭先生で分担をして渡島桧山地区の中学校を訪問し、学校説明を行っている。以上のように、多岐にわたる方法で、入試広報活動を行っている点が評価できる。

### 【特別支援教育】

特別支援を要する生徒について、事前相談の情報、入試・面接の結果を総合的に判断して可否を出している。

教職員が共通認識を持って迎え入れて、QUテストを参考にして対応している点、入学後も保護者との連絡を密にしている点が評価できる。

以上のおり、函館大谷高等学校の教育活動について評価をさせていただきましたが、逆に本校として多くのことを学ぶ機会となりました。今後の教育活動の参考にさせていただきたいと思います。この度は、丸山校長先生をはじめ、木戸口教頭先生、佐藤事務長先生、諸先生方には、多くのご助言をいただきました。心より感謝申し上げます。

以上